



大切な人、
大切な自分の
まちを守りたい

NISHIO VOLUNTEER FIRE CORPS



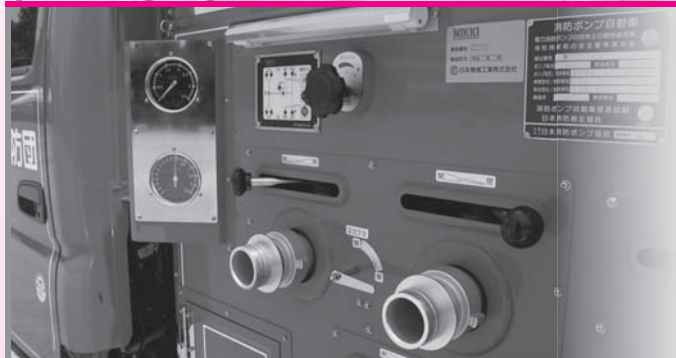
西尾市消防団

「町火消」として生まれた消防団は、郷土愛の精神を持ち、火災現場での消火活動だけでなく、自然災害にも立ち向かい、地域の防災活動にも全力を尽くしてきました。
旧幡豆郡3町の伝統を受け継ぎ、この4月に市に再編成された消防団の活動をご紹介します。



消防団の各分団は、消火栓や防潮扉などの点検を定期的に行っています。消火栓の点検では、その位置と「ふたが開きにくくなっていないか、土で埋まっていないか、水が出るか」を確認しています。台風接近による高潮や地震による津波に備え、海岸線や河口付近に設置されている防潮扉やひ門の点検では、その操作方法と「変形や破損、腐食などがないか」を確認しています。

01 消火栓・防潮扉などの点検



消防団には計10台のポンプ車が配備されています。車両の左側と右側にそれぞれ水を吸い上げる管（吸管）があり、左側は消火栓用で、右側は河川などの自然水利用です。そして吸い上げた水を同時に4か所から放水することができます。また、山林火災など近くに水利がない場合は、消防車を何台も中継し、水圧が落ちないようにポンプアップしながら火災現場まで水を送ります。

02 ポンプ車



消防団の士気と技術の向上を図るとともに日ごろの訓練の成果を披露する場として観閲式があります。観閲式では、市長を観閲者に迎え、服装や姿勢などの確認や車両や機械器具の点検が行われ、統制のとれた中隊訓練、敏速なポンプ車操法、的確な放水訓練などが披露されます。

今年度の観閲式は、10月23日(日)に横須賀公園で行われる予定です。

03 観閲式



ストーブなどの暖房器具の使用や、空気の乾燥によって火災が発生しやすい年の暮れ。消防団は、各分団ごとに年末夜警を実施し、夜間の防火啓発活動や団員による警戒を行っています。

「カーン、カーン」という警鐘を鳴らしながら消防車が街中を巡ると住民は年の瀬も押し詰まってきたことを実感します。

04 年末夜警

4月1日の合併により、旧幡豆郡3町の消防団は西尾市消防団として再編成され、活動を行っています。

消防団は、一色消防団（4分団）、吉良消防団（3分団）、幡豆消防団（2分団）からなる多団制をとっており、これをまとめる組織として市消防団連合会があります。

消防団員は総数296人。本業を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活動しています。自営業やサラリーマンなど職種もさまざまなおおむね20代・30代の活気あふれる若者たちが頑張っています。

消防団は、非常時に備えて、消火栓や防潮扉の点検、車両や機械器具の点検を行うほか、地域の自主防災訓練に積極的に参加し、訓練の指導を行っています。また、火災消火を想定した基本的な器具操作と動作の方式である消防操法の訓練を行い、これは団員の消防技術の

西尾市消防団

NISHIO VOLUNTEER FIRE

05 県消防操 法大会

消防操法とは、約70m先にある標的を火災と見立て、隊員6人でポンプ車を駆使し、「素早く」「正確に」「結束して」消火活動を行う一連の訓練です。普段は、観閲式などでその成果を披露しています。7月16日に田原市で行われた県消防操法大会には幡豆消防団が代表として出場し、6位入賞を果たしました。



06 日消 まとい

吉良消防団の「まとい」は全国の消防団のあこがれであり、最高の栄誉である日本消防協会特別表彰の証で、県下では6つの消防団のみが受章しています。県消防操法大会での輝かしい成績や災害時の活動、平常時の訓練など、長年地域防災の主軸として活躍した功績が認められ、平成5年度に受章したものです。



07 ラッパ隊

一色消防団はラッパ隊を保持しており、観閲式などの式典において国旗掲揚や表彰授与、放水訓練時の合図信号として演奏されます。このラッパは、音楽を演奏する通常の楽器としてではなく、通信機器が未発達であった時代に、指令などの合図を伝える道具（連絡手段）として主に用いられていました。



08 佐久島分団

佐久島には常備消防がありません。そこで一色消防団佐久島分団が重要な役目を果たします。火災が発生した場合には、消防団員が第一線で活動し、そのため日頃から消防ポンプの点検を入念に行い、訓練しています。また、本土に搬送が必要な救急患者が発生した場合には、ドクターヘリの受け入れや搬送の手助けも行っており、島にはなくてはならない存在となっています。



問合先
市消防本部総務課消防団
担当 (☎56・6250)



市消防団連合会長
田中三千雄

習得と土気の高揚につながっています。もちろん火災時には、少しでも早く消火できるよう消防署と連携を取って消火活動を行い、台風や地震などの自然災害時には、防潮扉などを操作して警戒にあたっています。東日本大震災においても、地域の事情を良く知る消防団員が自らも被災しているのに生存者の救出や行方不明者の捜索に尽力されました。この地域では、幸いにも大規模災害は発生していませんが、そのような場合には我々消防団が地域の力となると信じています。これからも市民の安心と安全を守るために活動させていただきますので、消防団の活動にご支援とご協力をお願いいたします。そして、「大切な人、大切な自分のまちを守りたい」という思いをお持ちの方、共に消防団の活動に参加してみませんか。やってよかったと思えることが必ず見つかると思います。